

潮騒

表浜地域では、古くから海との関わりが地域の生活に深く根付いています。

昭和20年代までは漁業が盛んで、特に地引網は表浜の人々にとって馴染み深いものでした。

現在は釣りやサーフィンなどを楽しむ場としても親しまれています。

今後も海との関わりを大切にし、その豊かさを次の世代に引き継いでいきたいものです。

CONTENTS

- ◆特集1「海から広がる渥美半島」…………… P1～2
- ◆特集2「活動紹介」…………… P3～4
- ◆連載「表浜の地形と暮らし」～新旧の写真や地図を比較して表浜の海岸侵食を再検討する～ …… P5
- ◆田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要…………… P6
- ◆表浜タイムズ…………… P7
- ◆令和4年度事業計画…………… P7



田原市博物館 企画展

海から広がる 渥美半島展

昭和前期の表浜での地引網の様子
(撮影:鈴木政一氏)

「潮騒」では、これまでに地引網を始め、東部太平洋岸地域の自然や先人たちが残した文化などを紹介してきました。

現在、田原市博物館企画展「海から広がる渥美半島展」では、渥美半島と海との関わりを、過去から現在まで紹介しています。本協議会も、現在の「海を守る活動」、「海に生きる活動」について資料を提供しています。表浜の、昔の資料なども展示されていますので、この機会に足を運んではいかがでしょうか。

潮騒の
バックナンバー



田原市博物館 企画展「海から広がる渥美半島展」

今回の企画展では渥美半島の人たちと海との関わりを歴史を「海から広がる」をテーマに紹介しています。その中から表浜に関連した展示の一部を紹介します。

渥美半島と海の物語をお楽しみください。

「表浜と地引網とイワシ」のこと

地引網は主に江戸時代以降、日本全国で行われてきた伝統的な漁法で、渥美半島でも表浜、三河湾側を問わず各地で広く行われてきました。

②の写真をご覧ください。箱やかごに一杯になった小魚の多くはイワシでしょう。焼いて、煮ておいしいイワシですが、冷蔵庫のない時代には、生のままですぐに傷んでしまいます。一方で、とにかくたくさん獲れるので、なんとか売り物にしたいもの…。

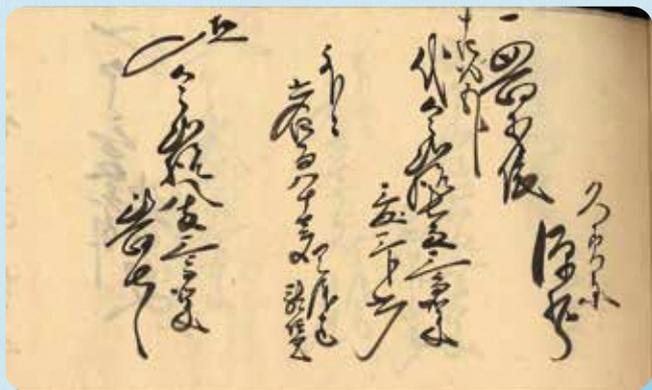


① 昭和前期 表浜での地引網の様子
(個人蔵)



② 昭和30年代か
地引網で捕れた小魚を仕分けする様子

そこでイワシを大鍋で煮込み、浜辺で天日に干して、煮干しにしました。ある表浜の網元の家の文書からは、煮干しが伊勢湾を渡り、名古屋や四日市等に出荷されたことがわかります。



③ 江戸時代

百々、浜田、久美原などの漁師から、
畠村(現福江町)の商人が日干したイワシを購入

このように、イワシは、煮干しにすることで活用の幅が広がりましたが、実は江戸時代にはイワシを、もう1つの売り物にする方法がありました。それは食用ではなく、田畑の肥料とするもので「ほしか(干鰯)」と呼ばれ、渥美半島の主力商品の1つでした。

詳しくは展示をご覧ください。

(田原市博物館学芸員 木村洋介)



④ 1903(明治36)年

表浜で作った煮干しが内国勸業博覧会で二等賞牌を獲得

お知らせ

企画展のイベントとして、第25回表浜自然ふれあいフェスティバル(P7)で、当日の清掃活動の参加者に、企画展リーフレットと記念品を配布します。(数に限りがあります)

田原市博物館 企画展

海から広がる 渥美半島展

船の科学館 Supported by
海の学び THE NIPPON
ミュージアム FOUNDATION
サポート

海と日本
PROJECT

東部太平洋岸地域に関連した
こんな展示も!

私たちが思うよりもずっと

多く渥美半島の人たちは海と生きてきたのです

2022.10.8 土 ▶ 11.27 日

休館日 毎週月曜日

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料 一般 400円(320円) / 小中学生 200円(160円)

※()は20人以上の団体料金

※東三河在住・在学の小中学生は、ほの国こどもパスポートの提示で観覧料無料



▲六連町で使用していたたこつぼ

詳しくは田原市博物館ホームページをご覧ください。



〈博物館HP〉

活動紹介【六連小学校】



全校児童数が57人と、東部中学校区の中でも比較的小規模な六連小学校。今回は六連小学校の活動について校長の小笠原真先生にお聞きました。

質問1 コロナ禍で工夫して取り組んでいることは？

密を避けることはもちろん、児童とともにコロナ対策を考えながら、学校行事を実施しています。学校行事などの体験を通じた学びは大きいので、安全な実施方法を模索しながら、児童たちの活躍の場を創出できるよう取り組んでいます。

質問2 地域との関わりについて教えてください。

地域との交流を深めるため、コミュニティ・保育園・小学校合同で運動会を行っています。当日は大人と子どもで待機スペースやトイレを分けるなど、児童が提案したコロナ対策をとり入れ、運動会を無事終えることができました。また、コミュニティやPTAの皆さまに、田植えやスイカの栽培、学校の環境整備にご協力いただくなど、さまざまな場面でお世話になっています。六連小学校は児童数が少ないので、地域との交流等を通じて、児童が人と関わる機会を増やしていきたいと考えています。

質問3 六連小学校で行っている地引網について教えてください。

地元の漁師さんに全面協力をいただき、例年5月に地引網と海岸の清掃活動を実施しています。地引網で捕獲した魚は各自で持ち帰り、中には60センチ近くの鯛を刺身やしゃぶしゃぶで食べたという家庭もありました。今年度は授業の一環として、秋にも地引網を行う予定です。楽しみながら、地域の自然環境や伝統文化を学ぶとともに、若い世代に引き継いでもらいたいものです。



校区大運動会



スイカの栽培



地域の方や園児と一緒にいった田植え



地引網

表浜ほうべの森 [田原市谷ノ口公園]

一年を通して、多くの利用客で賑わう表浜ほうべの森。表浜ほうべの森の近況について、谷ノ口公園管理委員会の福井公雄さんにお聞きしました。

質問1 キャンプ場の利用状況を教えてください。

今年に入って貸し切りの利用が増えました。子どもキャンプ体験を始め、結婚式や企業主催のイベントの会場としても活用されています。多目的ホールや研修棟があることにより、天気に左右されずイベント等を実施できることから、様々な利用方法が続々と生まれています。



質問2 最近の取組について教えてください。

最近、ロータリークラブ様による花ももの植樹や、国際ソロプチミスト豊橋様による展望デッキの寄贈など、運営にご協力いただくことが増え感謝しています。また、新しい取組みとして、花壇にフジバカマを植栽しました。今後は田原市民にも気軽に来園してもらえるよう、公園の利用方法の幅を広げていきたいと考えています。散策で立ち寄っていただくことも大歓迎です。ぜひお気軽にお越しください。

利用者の声

- トイレや水道が清潔で使いやすかったです。
- 芝生も手入れされていて、また来たいです。
- 自然が豊かで気持ち良かったです。



太平洋を一望できる展望デッキ



花ももの木

表浜ほうべの森 TEL●0531-24-8901

表浜の地形とくらし

第5回 ～新旧の写真や地図を比較して表浜の海岸侵食を再検討する～ / 藤城信幸



【写真1】2009年の大草海岸(田原市役所提供)

表浜で最も侵食が激しいのが大草海岸で、明治21年(1888)の地籍図と昭和30年(1955)の海岸調査を比べると、67年間に80mも海岸線が後退し、年平均1.2mも侵食されてきたと記されています。同様に久美原・赤羽根が0.9m、高松が1.0mという年平均値も書かれているのです。しかし、写真1を見る限り、砂浜の背後にある海食崖には植生が一面茂っています。表浜海岸は本当に年間1mも後退してきたのでしょうか。

改めて明治23年(1890)に実測された地形図と現在の田原市都市計画図(2017)を比べてみます。

写真1は、上空から見た大草町半身海岸の様子です。白い砂浜と緑の植生で覆われた海食崖、崖の上の台地には集落や耕地が広がっています。

「表浜の海食崖は、年々侵食されて年間1mくらい後退している」と多くの本で紹介され、住民からも海岸侵食が激しく心配だという話はよく耳にしました。

建設省「海岸30年のあゆみ」(1981)の中に、表浜の海岸侵食に関する調査報告が掲載されています。



【図1】大草海岸侵食変化図(海岸30年のあゆみより)



【図2】1890年の大草海岸(大日本帝国陸地測量部)

図2は、明治21年の地籍図からわずか2年後に国が実測して作成した大草海岸の地形図です。谷で深く削られた海食崖上の標高41.0m付近に神明社があり、崖に沿うように表浜街道(赤線)が通っていて、その北側に集落が見られます。

図3は2017年の大草海岸です。図1の侵食変化図とは異なり、汀線や海食崖が大きく後退した様子は確認できません。報告書のように年間1.2mの侵食が続けば、127年間に150m以上も海岸線が後退し、街道も神明社も移動しているはずですが。

現在も崖の上には旧表浜街道も神明社も残っています。地元で話を伺うと、集落移動もほとんどなかったようです。

写真2は、1959年の伊勢湾台風直後と2018年の南町海岸です。1959年の写真には地肌が剥き出しの海食崖と地引網の加工場が写っています。2018年には崖全体が植生に覆われていますが、崖の形は変化が見られません。南町海岸でも59年間に海食崖の後退がほとんど進んでないということになりそうです。



【図3】2017年の大草海岸(田原市都市計画図)



【写真2】1959年(田原市役所提供)と2018年の南町海岸

「みんなで考え・行動する地域づくり」

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要

■会長あいさつ

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会 会長 岡田 惣二

本協議会は平成8年の発足以来26年目になります。六連・神戸・大草そして田原東部の4校区が主体となり、田原市の協力をいただきながら、自立した地域活動を歩み進めて参りました。協議会の活動の一つに「表浜自然ふれあいフェスティバル」があります。この行事は、表浜海岸の大自然の魅力を感じながら、崖森の崩落や海岸侵食の現状を広く知ってもらうことを目的に毎年開催しているものです。地域の方やボランティア、サーフィン協会、田原市立東部中学校など、多くの方々に携わっていただいています。

このようなイベント等を通して、同じ海岸環境を持つ地域との連携をとりながら、行政と一体となって海岸侵食対策、地震対策等に取り組むとともに、太平洋岸地域の快適で住みよい環境整備が実現できるよう活動していきたいと思っております。



今後の協議会の取り組み

- ・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
- ・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
- ・渥美半島全体の連絡調整
- ・関係機関への要望活動等の展開

■協議会組織 (令和4年10月現在・順不同)

役員	会長	岡田惣二(田原東部コミュニティ協議会長)
	副会長	鈴木義人(六連コミュニティ協議会長)、浅野正三(神戸コミュニティ協議会長)、寺田孝士(大草コミュニティ協議会長)
委員	市議会議員	大竹正章、仲谷政弘、赤尾昌昭、村上誠
	漁業関係者	河合浩一(愛知外海漁業協同組合幹事)、太田行彦(愛知外海漁業協同組合網元代表)
	市農業委員	井坂育男、河合信好、藤城忠義、河邊高章
	市役所	鈴木正直(副市長)、鈴木隆広(産業振興部長)、鈴木洋充(都市建設部長)、増山禎之(教育部長)
顧問	山下政良(田原市長)、山本浩史(愛知県議会議員)、鈴木照彦(愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長)	
事務局	市役所企画部企画課	

●表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けての主な動き

海と森と農村における「自然と人」「人と人」のふれあいの庭(ガーデン)をイメージし、その実現のために、海・砂浜・崖・森・農地の保全と利用を図ると同時に、新たにレクリエーション・保養・学習などふれあい機能の導入を図るもの。

ハード事業

◆海岸整備(県事業)

- ◇海岸保全事業(傾斜護岸): 離岸堤調査・工事(豊橋田原海岸)
- ◇海岸治山事業: 10箇所要望中・随時実施予定

◆拠点地区の整備促進(市事業)

- ◇公園整備事業: 表浜ほうべの森整備(H18～)
- ◇観光地維持管理事業: 浜田海岸レンタルトイレ1基設置(R4.5月～11月)

ソフト事業

◆表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

- ◇清掃場所: 久美原海岸・浜田海岸・百々海岸・東ヶ谷海岸・谷ノ口海岸・南町海岸・大草海岸
- ◇親睦会場: 表浜ほうべの森(田原市谷ノ口公園)

●農地エリアの整備 実現に向けての主な動き

ハード事業

◆農村・農地の整備(市事業)

- ◇農村振興総合整備事業: 大草・高松地区(H18～) / 田原東部地区(H19～)
- ◇多面的機能支払事業(H26～)

表浜タイムズ

整備事業の推進

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会では、海岸や防風林、保安林などの管理者である愛知県に、海岸保全施設と治山施設整備の要望活動を例年行っています。愛知県によって下記のとおり治山事業が進められています。

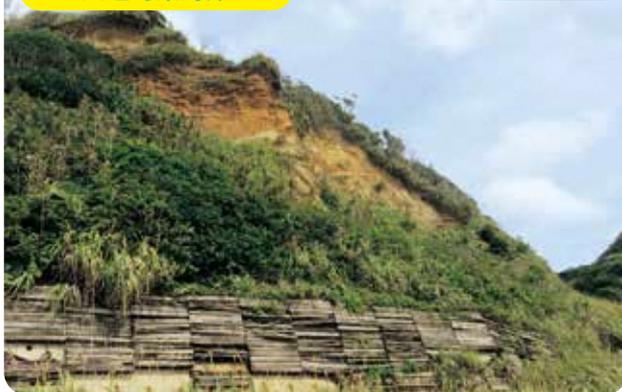


愛知県への要望活動 (R4.8.10)

東部太平洋岸地域における治山事業

六連町東海岸

実施予定



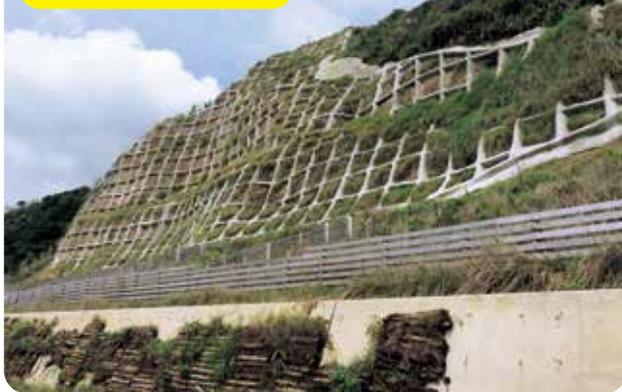
南神戸町方辺

一部実施済み・実施予定



六連町西海岸

実施済み



第24回 表浜自然ふれあいフェスティバル

令和3年11月27日に表浜自然ふれあいフェスティバルを開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、親睦会は行わず、海岸清掃のみを実施しました。



谷ノ口海岸の参加者

令和4年度事業計画

主要事業

第25回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 ● 令和4年11月26日(土) 午前9時～午後1時
※悪天候の場合は、11月27日(日)に延期

場所 ● 久美原海岸、百々海岸、浜田海岸、東ヶ谷海岸、谷ノ口海岸、南町海岸、大草海岸

内容 ● 海岸清掃等

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、内容の変更が生じる場合がございますのでご了承ください。

主な推進事業

農村総合整備事業：田原市産業振興部農政課
[大草・高松地区、田原東部地区]

多面的機能支払事業：田原市産業振興部農政課
[六連・神戸・大草・田原東部各校区]

海岸治山事業：愛知県東三河農林水産事務所

海岸保全対策：愛知県東三河建設事務所

谷ノ口公園管理事業：田原市都市建設部街づくり推進課

★表浜地域づくり情報誌「潮騒」や「協議会活動」に対するご意見・ご要望・ご感想をお寄せください。

【発行】田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会(事務局:田原市役所企画部企画課) 〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1 TEL0531-23-3507